

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：舞鶴遊水地を軸とした「タンチョウも住めるまちづくり」について		
水系/河川名：石狩川水系/嶮淵川(舞鶴遊水地)	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：1244(千歳川)	整備計画流量：160m ³ /s	セグメント：2-1
事業：その他	事業開始年度	平成20年度
目標設定：定性的	段階	C(モニタリング・評価時)
課題・目的(主な)：貴重種・特定動植物の保全、その他		
工法(主な)：移植、植樹、その他		
配慮事項(主な)：歴史・文化への配慮、委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

(背景)

千歳川流域の治水対策として4市2町の6箇所で行われる千歳川遊水地群の整備を平成20年度から実施。このうち長沼町に位置する舞鶴遊水地は平成27年度から供用が開始された。舞鶴遊水地の周辺はその名前が示す通りにかつてはタンチョウやマナヅルの繁殖地であったが開拓による生息地の減少により長らく姿を消していた。

舞鶴遊水地では工事中の平成24年からタンチョウの飛来が確認され、その後も継続してタンチョウの飛来が確認された。それをうけ平成28年度に北海道開発局と長沼町が連携し「タンチョウも住めるまちづくり検討会」が設立し、タンチョウを呼び戻す取り組みが進められている。

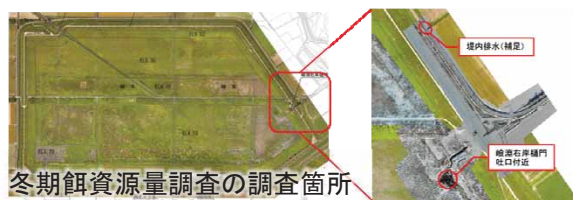


取り組み内容・対策例(1/2)

〈取り組み内容〉

千歳川河川事務所では工事着手以降、環境調査を実施し調査結果を検討協議会での議論や生息環境整備に反映。植物調査では平成23年度から遊水地内の植物群落の遷移を記録。動物調査では両生類爬虫類哺乳類調査を平成27年度と平成28年度に実施、平成29年度からはアライグマモニタリングを実施し、平成30年度からは長沼町がアライグマ捕獲のための罠を設置している。

令和元年度には冬期の遊水地内の環境がタンチョウの生息に適しているのか餌資源量調査、不凍水域の湧水調査を実施。



また、タンチョウの早期個体定着に向けた営巣環境整備を目的として平成29年度には繁殖に必要な微高地を整備し平成30年度には巣材となるヨシの植栽を行った。



取り組み内容・対策例(2/2)

〈取り組み内容〉

また、舞鶴遊水地を軸に地域作りや普及啓発を行っている。舞鶴遊水地では観察小屋「鳥の駅マオイト」を設置し環境教育や情報発信の起点にしている。長沼町の小学生や高校生を対象に出前講座を実施している。



加えて普及啓発として注意看板の設置や「舞鶴遊水地にタンチョウを呼び戻す会」がボランティアで見回りを実施し観察マナーの理解促進に努めている。

長沼町内の事業者によるタンチョウモチーフの商品(パン、日本酒、ソフトクリーム等)が進められている。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

〈モニタリング結果〉

- ・植物調査・・・平成29年度以降はタンチョウの巣材となるヨシの群落がパッチ状に広がってきている。
- ・動物調査・・・平成30年度と比較して令和元年度は遊水地内でのアライグマの撮影頻度が減少しており長沼町による捕獲の効果が現れている可能性がある。
- ・餌資源量調査・・・遊水地内では堤内排水と比較して多くの魚類や水生生物が捕獲された。
- ・湧水調査・・・遊水地内で湧水は見られなかったが、嶮淵右岸樋門付近は幌内川の流れ込みによって解放水面が維持されていた。
- ・微高地の整備・・・ヨシの植栽を行った箇所全てでヨシの定着が確認され、植栽を行っていない箇所でも植生の回復が見られた。

〈アピールポイント〉

舞鶴遊水地では令和2年4月にタンチョウのつがいの営巣が確認され、5月に雛の孵化が確認された。空知管内でのタンチョウの雛の誕生はおよそ100年ぶりであり人工的に作られた施設での営巣、繁殖は世界的にも非常に珍しい。雛は順調に成長し今年8月には雛の飛翔が確認された。



備考